

Logistics Style Reform

休業労災防止に向けた アシストスーツ導入のご提案



若松梱包運輸倉庫株式会社

はじめに



総合物流を生業とする若松梱包運輸倉庫より、生産性を向上させるご提案を致します。当社は、物流を核に、お客様(荷主様)のお客様(荷主様の御取引先)に、ご満足いただくサービスのご提供に、日々努めております。

その活動の中で、休業労災の要因となる「腰痛」がお客様の経営リスクであることに着目し、腰痛を起こさない作業を実現できるツールをご案内することに致しました。

そのツールは、作業を支援する「アシストスーツ」です。俗にマッスルスーツと言われますが、当社では、その目的を明確にしたご導入をご提案致します。マッスルスーツを作業現場や作業の方々に配布しても、効率的に活用されなければ課は得られません。

アシストスーツは、作業の方が楽になるものではなく、腰痛を防止し、労災をなくすことが導入の目的となります。導入のご検討にあたり、本商品の動画をご覧いただき、使用される場面をイメージして頂きます。 <https://m.youtube.com/channel/UCc6QyavH7r0HZFPsqwwRxxw>

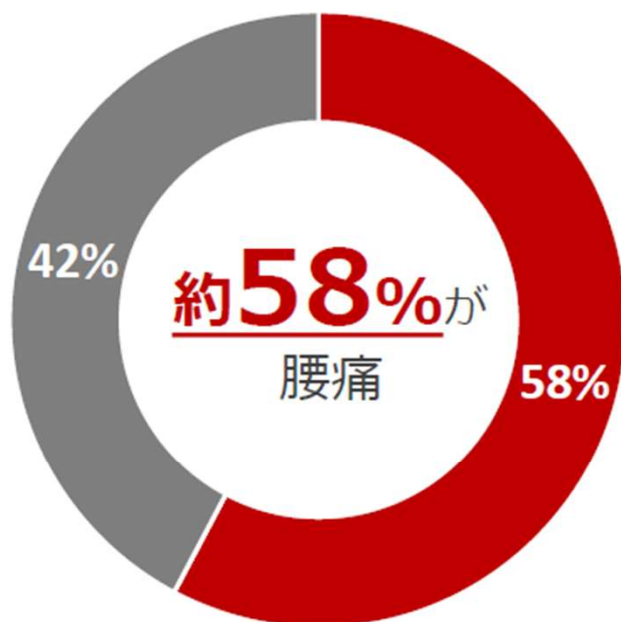
次に、イメージされた作業場面について、姿勢や動作(中腰、持ち上げ)、人数、荷物の重量、作業時間などの大枠をご確認頂きます。

その後、活用により効果が出るとご判断されましたら、いよいよ導入のご検討となります。効果が出る場面の想定は、当社がアシスト致します。

1. 腰痛発生状況と影響

腰痛は業務上の発生率が高く、休業も長期化の傾向
 労災の約60%が腰痛

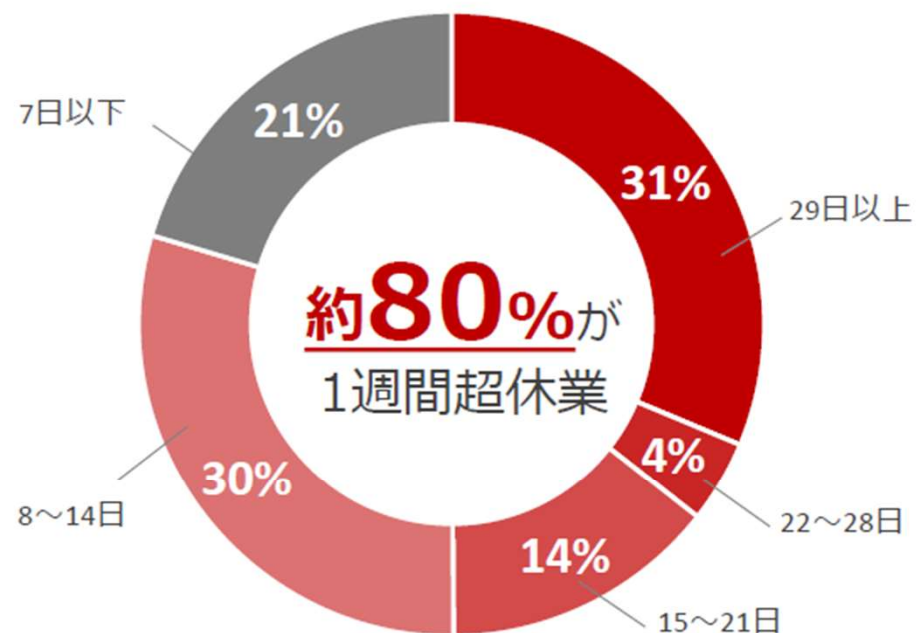
■ 業務上疾病発生状況
 n=8,684



■ 腰痛(災害性腰痛) ■ 腰痛以外

出典：厚生労働省「業務上疾病発生状況等調査(平成30年)」
 ※休業4日以上のもの

■ 休業見込み日数(保険衛生業) n=697



出典：厚生労働省「職場における腰痛発生状況の分析について(平成20年)」

2. 腰への負担軽減に取り組む意義

1

退職・休業の減少

社員様が長期的に安心して働く環境を構築

2

生産性向上

健康を維持することで、生産性低下を防止

3

人材採用コストの減少

退職・休業者を減らすことで採用・教育コスト減少

新卒採用コスト

年間採用コスト 約 **700** 万円

1人当たり採用コスト 約 **55** 万円

中途採用コスト

年間採用コスト 約 **800** 万円

※「求人広告」と「人材紹介」費用の合計

1人当たり採用コスト 約 **40** 万円

※1人当たりの求人広告費

3. 労災防止ツールとしてのアシストスーツ



マッスルスーツEvery



1	腰補助	5	センサーレスで誤動作なし
2	最大補助力 25.5kgf	6	装着10秒
3	電力不要	7	軽量
4	メンテナンス不要	8	低導入コスト

特徴

- powerful** (パワフル): 最大補助力25.5kgfで動作をアシスト
- eco friendly** (省エネ): 電気不要! 空気のみで動くから、稼働時間に制限なし
- light weight** (軽量): 本体重量3.8kg
- simple** (簡単): 10秒で装着完了。操作も習熟要らず
- good value** (お手頃価格): ご家庭でも購入可能な価格を実現
- water & dust proof** (防水防塵): 屋外や水場の作業も問題なし

4. アシストスーツ 評価・導入プロセス

【重要】 デモ機を借りただけでは、評価したことになっていない



標準化へ向けた評価方法（例）

作業内容	着用前 作業時間	頻度/日	重量物	中腰姿勢	着用 可否	着用後 作業時間	作業時間	標準化 可否
運搬A	35分	1	30kg	10分	可	30分	86%	可
作業B	20分	2	15kg	10分	可	21分	105%	可
作業C	10分	1	20kg	なし	不可		-	否
作業D	30分	0.5	20kg	5分	可	20分	83%	可
運搬E	15分	0.5	18kg	5分	可	20分	133%	否

→ 作業毎に、着用可否、着用後の作業時間を特定し標準化できるか定量的な評価を行う。

5. ケーススタディ・導入がうまくいかない

担当者が現場に、試しておいてと依頼だけする。(評価を現場に託す)

- ・作業者は業務量の増加へ懸念があり、**新しい機材の導入には抵抗**がある。
- ・動きやすい、軽くなった、実感が少ない、などの**主観的な評価**を行う。
導入目的である雇用の安定など腰への**負担軽減の観点からの評価が不足**。
- ・予防目的の装備では、動きやすさの評価ではなく**作業可否の評価が必要**。

ヘルメット、安全帯、安全靴等との親和性を確認する →



担当者が現場のルールを決めずに、試験導入する。(導入責任が不在)

- ・作業者は装備が増えることに抵抗があるため、**面倒になり使用しなくなる**。
- ・導入担当者は現場への**ルール徹底を回避する**場合がある。
- ・作業単位でルール化されていない装備は、**結果として使われない**。

休業労災の削減に向け、是非ご検討賜ればと存じます。
ご不明な点は、ご遠慮なくお問合せ頂けますと幸いです。

若松梱包運輸倉庫株式会社

事業開発部 伊地知真弘
090-7844-3607
m.ijichi@wakamatsukonpou.co.jp